

ご近所の お医者さん

□
704
□

きららこども
クリニック院長

川尻三枝さん

＝大阪市生野区

スマホのある時代の子育て

ベビーカーの赤ちゃんが寂しそうに視線を送った先には、スマホに没頭するお母さんがいた！ またある時は1歳にも満たない赤ちゃんが指でスクロールしながらスマホ動画を見ている！ これが小児科待合室のいつもの光景です。

子育てに
スマホ依存
の気配を感

じた出来事がありました。待合室で孫に子ども向けのスマホ動画を懸命に見せて機嫌をとる祖母。診察室に入ってから、孫の斜め前にかがんで熱心に

町の小児科医の危機感

スマホ動画を見せ続けていました。母親のお膝に抱っこされたお孫さん、ワクチンを接種された途端、泣き叫び視線が泳ぎますが、その視線をスマホで追いかけて、一心不乱にくねくねと動く祖母は終始無言でしたので異様な光景

なごだと確信しています。ある時期を境に「わたし、もう注射で泣かない」と宣言して診察室に入ってくるお子様もいます。終わったら思いつき褒めてあげれば誇らしげに診察室を後にします。一步成長した証し、これを見るのも小児科医の醍醐味です。

子どもに最初にスマホを与えるのは大人です。

スマホのある時代の子育ては楽な

でした。

本来なら泣いている子どもには「よしよし、すぐ終わるから大丈夫よ」と目を合わせて優しく語りかけ安心させてあげるべきでしょう。お子様の泣きやぐずりは大人にとっては非常につらい時間でしょうが、この場合、スマホ画像などで気を紛らわせて現実逃避させるのではなく、負の状況を受け入れ乗り越える力を養う経験を積ませることが、お子様の成長にとっては大事

ようで大変です。与えるだけ与えておいて後からルールを厳しくつくることほど大変なことはありません。知らない間にスマホ漬けの子育てになっていた、なんてことがないようにこの機会にスマホとの向き合い方について考えてみませんか。

日本小児科医学会より、こどもとスマホ・メディアの付き合い方について一般向けに発信されていますので興味ありましたらご覧ください。

